

日本の援助関係の中東・イスラム観

(単純集計結果)

I 回答頂いた方々について

- 1) 回答者の性別 (Q301)
- 2) 開発援助に携わった年数 (Q302)
- 3) 赴任国での雇用形態 (Q303)
- 4) 業務分野 (Q304)
- 5) 任地における滞在年数 (Q305)
- 6) 海外滞在国名および滞在年数 (Q306)
- 7) 回答者の婚姻の有無 (Q308)
- 8) 配偶者の国籍 (Q309)
- 9) 家族帯同の有無 (Q310)
- 10) 単身赴任の理由 (Q311)
- 11) 子どもの学校教育 (Q312)
- 12) 現住地 (Q314)
- 13) 回答者の年齢 (Q315)
- 14) 回答者の学歴 (Q316)

II 現住国での日常生活

(1) 生活環境

- 1) 住居形態 (Q101)
- 2) 居住地区 (Q102)
- 3) 現地の人々との付き合い (Q103)
- 4) 家庭内の使用人 (Q104 Q105)
- 5) 日常生活での使用言語 (Q106)
- 6) 現地での情報収集源 (Q107)

(2) 日常生活への適応状況

- 7) 赴任前の不安や心配 (Q108 Q109)
- 8) 適応の難易度と期間 (Q110 Q111)
- 9) 適応が難しかった点 (Q112)
- 10) 現地生活の楽しさ (Q113)
- 11) 日常生活でのトラブルおよび事故 (Q114 Q115)

(3) 社会習慣・宗教

- 12) 赴任前の現地に対する印象 (Q116)
- 13) 赴任後の現地社会に対する印象 (Q117 Q118)
- 14) 日常生活の中での宗教に対する意識 (Q119)
- 15) 職場での宗教に対する意識 (Q120)
- 16) 宗派のちがいについての意識 (Q121)
- 17) 赴任前のイスラームに対する印象 (Q122)

1 8) 着任後のイスラームに対する印象 (Q123 Q124)

III 職場体験

(1) 勤務状況

- 1) 日本人と現地出身スタッフの人数 (Q201)
- 2) 職場での使用言語 (Q202)
- 3) 職場への適応 (Q203)
- 4) 適応が難しかった点 (Q204)
- 5) 適応に努力した点 (Q205)
- 6) 現地の習慣や考え方の違いによる職務上の困難 (Q206)
- 7) 職場での現地の人々との関係におけるとまどい (Q207)
- 8) 職務上のトラブルおよび事故 (Q208 Q209)

(2) 開発援助の成果

- 9) 開発援助の意義に対する意識 (Q210)
- 1 0) 開発援助の成果に対する意識 (Q211 Q212 Q213)
- 1 1) 開発援助の現場での連携に対する意識 (利害関係者や機関) (Q214)

(3) 今後の開発事業

- 1 2) 援助事業を通じた日本と赴任国の相互理解について (Q215)
- 1 3) 開発事業に携わる上での必要事項 (Q216)
- 1 4) 職務遂行上での中東地域研究者とのかかわり度合い (Q217)
- 1 5) 開発分野における中東地域研究者との連携 (Q218 Q219)
- 1 6) 中東地域研究者に対する開発援助者の期待と希望 (Q220)

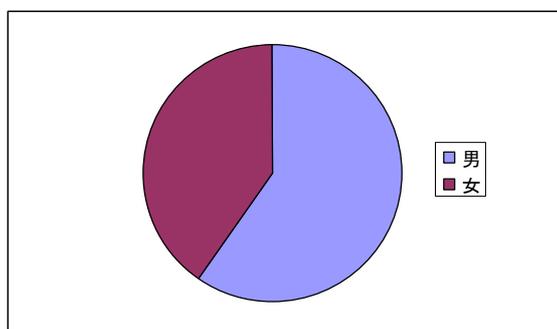
日本の援助関係の中東・イスラム観

(単純集計結果)

I 回答頂いた方々について

1) 回答者の性別 (Q301)

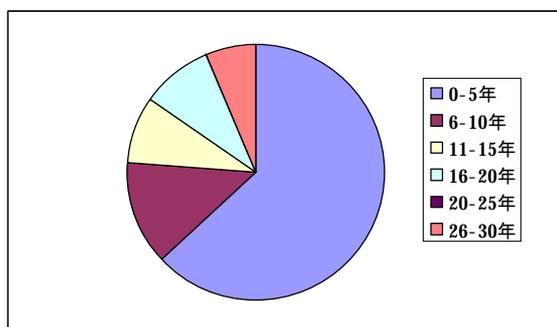
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
男	12	9	17	12	3	1	5	9	4	72
女	7	10	18	8	0	0	4	1	1	49
合計	19	19	35	20	3	1	9	10	5	121



2) 開発援助に携わった年数 (Q302)

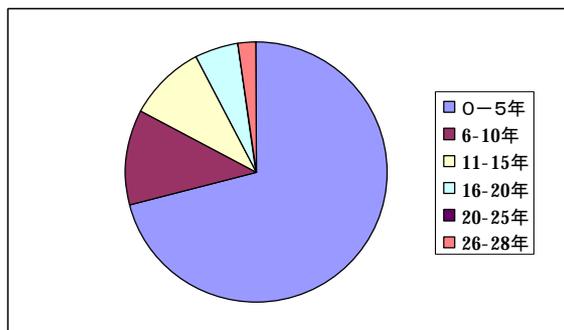
Q302-1 JICA 職員としての勤務年数

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
0-5年	6	4	7	8	0	0	1	2	1	29
6-10年	1	1	1	1	0	1	0	0	1	6
11-15年	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4
16-20年	0	0	0	1	1	0	0	0	2	4
20-25年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26-30年	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3
合計	8	7	11	11	1	1	1	2	4	46



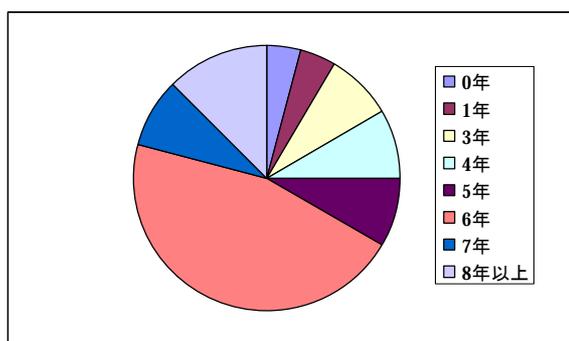
Q302-2 専門家、コンサルタント、ボランティア等で活躍した通算年数

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
0-5年	13	11	17	8	2	1	3	7	4	66
6-10年	1	2	2	3	0	0	2	1	0	11
11-15年	0	1	4	3	0	0	0	1	0	9
16-20年	0	0	2	1	0	0	2	0	0	5
20-25年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26-28年	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	16	14	25	15	2	1	7	9	4	93



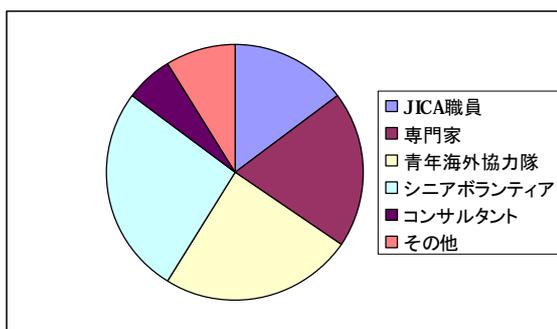
Q302-3 開発援助に携わった年数

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	イエメン	チュニジア	合計
0年	0	0	0	1	0	0	1
1年	0	1	0	0	0	0	1
3年	0	0	1	1	0	0	2
4年	1	0	0	0	0	1	2
5年	0	1	0	1	0	0	2
6年	2	2	3	1	2	1	11
7年	1	0	1	0	0	0	2
8年以上	1	0	1	1	0	0	3
合計	5	4	6	5	2	2	24



3) 赴任国での雇用形態 (Q303)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
JICA職員	3	4	5	2	1	1	0	0	2	18
専門家	2	3	7	4	0	0	4	2	2	24
青年海外協力	2	9	12	4	0	0	3	0	0	30
シニアボラン	10	3	3	6	2	0	0	8	0	32
コンサルタント	1	0	5	1	0	0	0	0	0	7
その他	2	1	3	3	0	0	1	0	1	11
合計	20	20	35	20	3	1	8	10	5	122



4) 業務分野 (Q304)

(処理中)

5) 任地における滞在年数 (Q305)

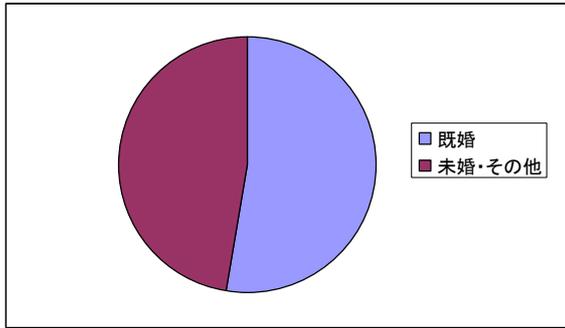
(処理中)

6) 海外滞在国名および滞在年数 (Q306)

(処理中)

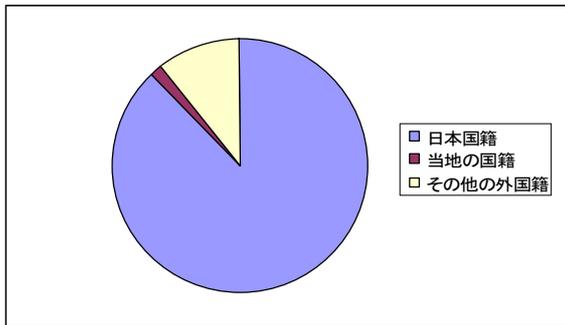
7) 回答者の婚姻の有無 (Q308)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
既婚	12	5	17	11	2	1	4	7	4	63
未婚・その他	8	15	18	8	0	0	4	3	1	57
合計	20	20	35	19	2	1	8	10	5	120



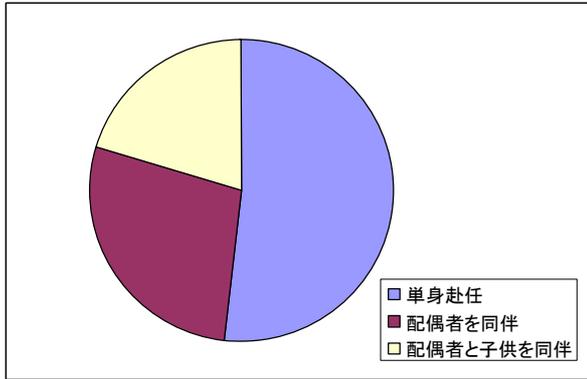
8) 配偶者の国籍 (Q309)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
日本国籍	10	6	16	9	3	1	4	5	4	58
当地の国籍	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他の外国籍	2	0	0	2	0	0	0	2	1	7
合計	12	6	16	12	3	1	4	7	5	66



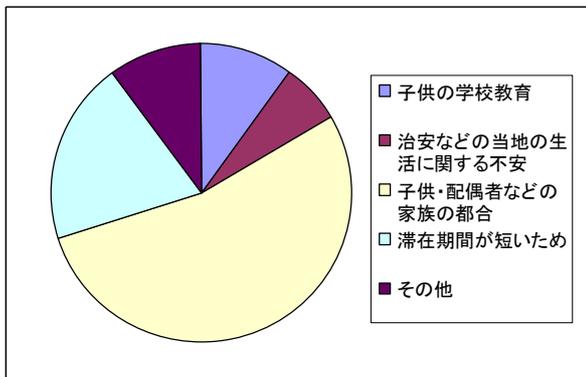
9) 家族帯同の有無 (Q310)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
単身赴任	8	0	11	3	3	0	2	4	2	33
配偶者を同伴	2	5	2	5	0	1	2	1	0	18
配偶者と子供を同伴	1	0	4	3	0	0	0	2	3	13
合計	11	5	17	11	3	1	4	7	5	64



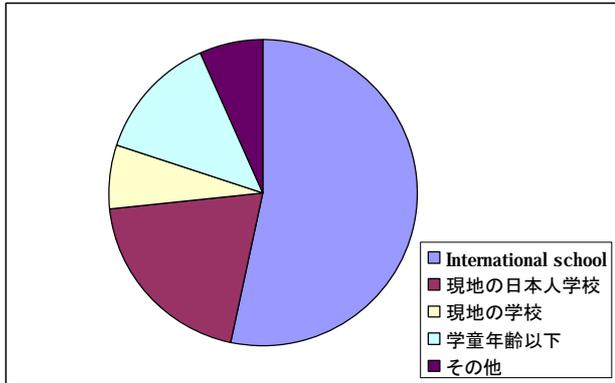
10) 単身赴任の理由 (Q311)

	シリア	エジプト	モロッコ	トルコ	イエメン	チュニジア	イラン	合計
子供の学校教育	0	0	0	1	0	0	2	3
治安などの当地の生活に関する不安	1	0	0	0	0	1	0	2
子供・配偶者などの家族の都合	5	5	2	2	1	1	0	16
滞在期間が短いため	1	3	1	0	0	1	0	6
その他	0	2	0	0	0	1	0	3
合計	7	10	3	3	1	4	2	30



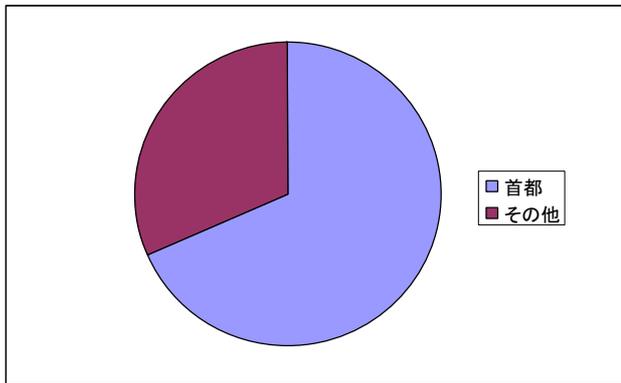
11) 子どもの学校教育 (Q312)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	チュニジア	イラン	合計
International school	1	1	1	2	2	1	8
現地の日本人学校	0	0	2	0	0	1	3
現地の学校	0	0	1	0	0	0	1
学童年齢以下	0	0	1	0	0	1	2
その他	0	0	0	1	0	0	1
合計	1	1	5	3	2	3	15



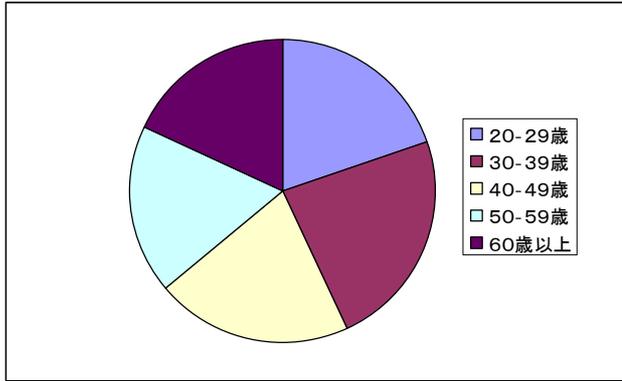
12) 現住地 (Q314)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
首都	9	11	24	9	3	1	8	8	5	78
その他	9	8	7	10	0	0	0	2	0	36
合計	18	19	31	19	3	1	8	10	5	114



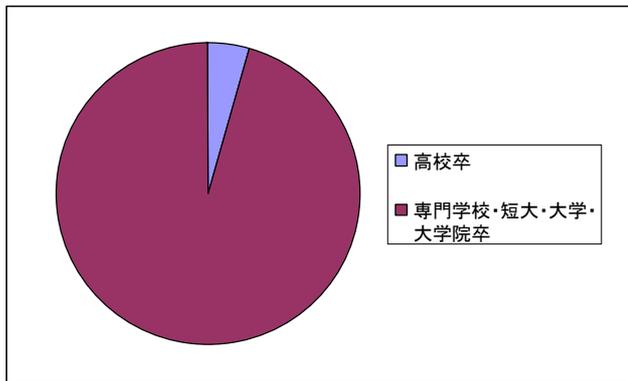
13) 回答者の年齢 (Q315)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
20-29歳	2	8	6	3	0	0	4	0	0	23
30-39歳	5	4	14	3	0	0	1	0	0	27
40-49歳	1	3	5	5	1	1	1	3	4	24
50-59歳	3	1	4	7	0	0	2	3	1	21
60歳以上	9	3	3	1	2	0	0	3	0	21
合計	20	19	32	19	3	1	8	9	5	116



14) 回答者の学歴 (Q316)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
高校卒	0	2	0	2	0	0	1	0	0	5
専門学校・短大・大学・大学院卒	20	17	32	17	3	1	6	9	5	110
合計	20	19	32	19	3	1	7	9	5	115

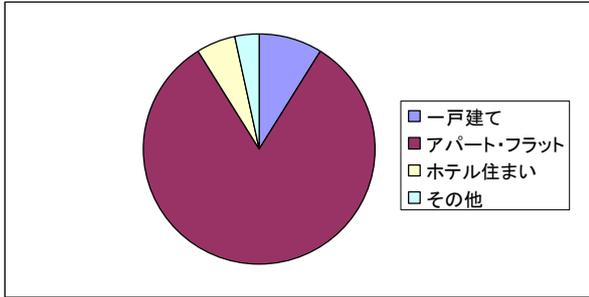


II 現住国での日常生活

(1) 生活環境

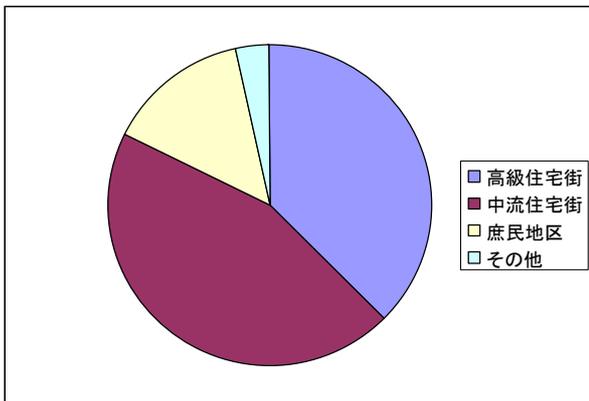
1) 住居形態 (Q101)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
一戸建て	1	1	0	2	0	0	4	3	0	11
アパート・フラット	18	19	29	18	2	0	4	6	5	101
ホテル住まい	1	0	6	0	0	0	0	0	0	7
その他	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4
合計	20	20	35	20	3	1	9	10	5	123



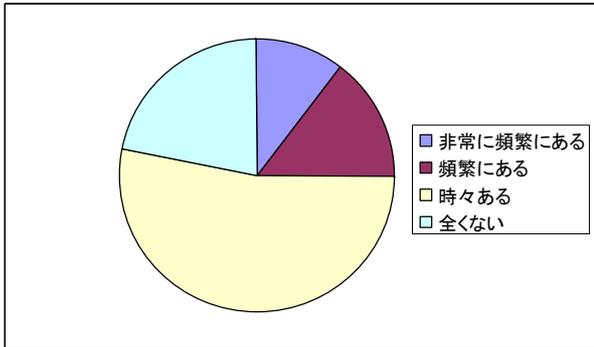
2) 居住地区 (Q102)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
高級住宅街	11	7	13	3	3	1	3	2	3	46
中流住宅街	7	6	20	12	0	0	4	4	2	55
庶民地区	1	7	1	5	0	0	2	2	0	18
その他	1	0	1	0	0	0	0	2	0	4
合計	20	20	35	20	3	1	9	10	5	123



3) 現地の人々との付き合い (Q103)

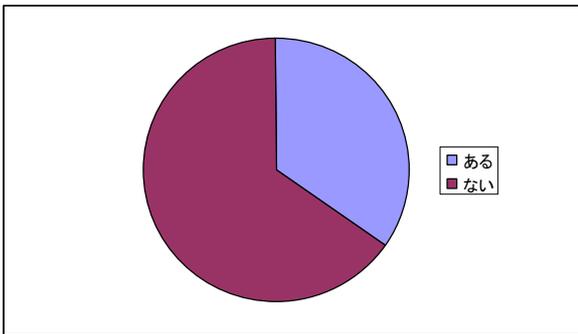
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁にある	2	1	4	4	0	0	1	1	0	13
頻繁にある	0	0	6	7	1	0	1	3	0	18
時々ある	12	14	17	5	1	1	6	5	4	65
全くない	6	5	8	4	1	0	1	1	1	27
合計	20	20	35	20	3	1	9	10	5	123



4) 家庭内の使用人 (Q104 Q105)

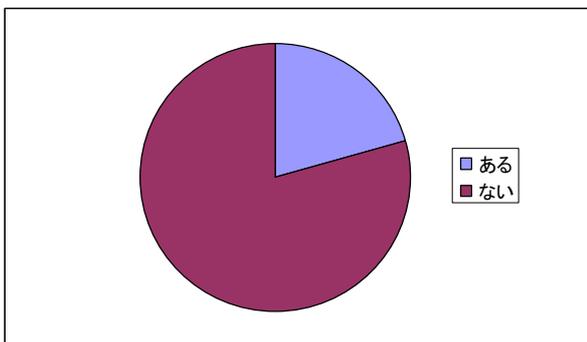
Q104-1 お手伝いさんの有無

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	2	5	15	8	1	0	5	1	4	41
ない	17	15	19	12	1	1	4	8	0	77
合計	19	20	34	20	2	1	9	9	4	118



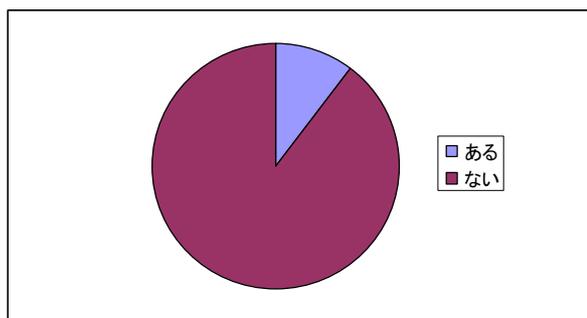
Q104-2 運転手さんの有無

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	1	0	16	2	0	0	1	0	4	24
ない	18	20	18	16	2	1	8	9	0	92
合計	19	20	34	18	2	1	9	9	4	116



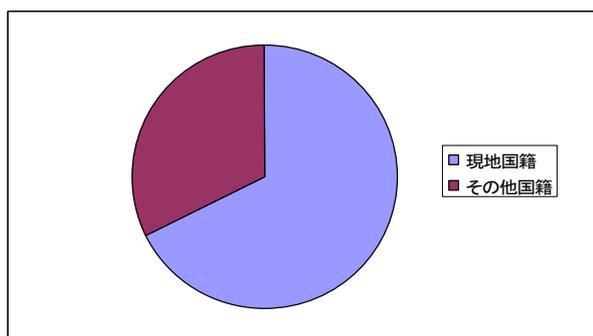
Q104-3 その他の使用人の有無

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	1	0	0	0	0	1	3	0	1	6
ない	15	13	11	5	2	0	4	3	0	53
合計	16	13	11	5	2	1	7	3	1	59



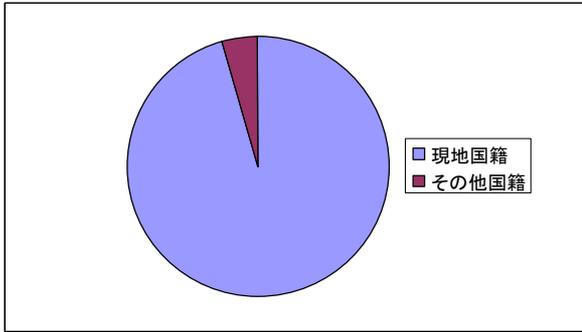
Q105-1 お手伝いさんの国籍

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	イエメン	チュニジア	イラン	合計
現地国籍	0	0	14	8	1	2	0	4	29
その他国籍	2	5	2	0	0	4	1	0	14
合計	2	5	16	8	1	6	1	4	43



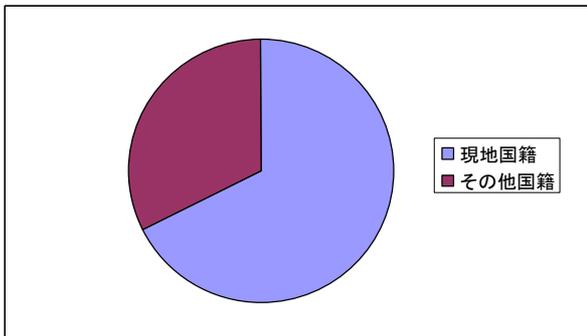
Q105-2 運転手さんの国籍

	エジプト	モロッコ	イエメン	イラン	合計
現地国籍	15	2	1	4	22
その他国籍	1	0	0	0	1
合計	16	2	1	4	23



Q105-3 その他の使用人の国籍

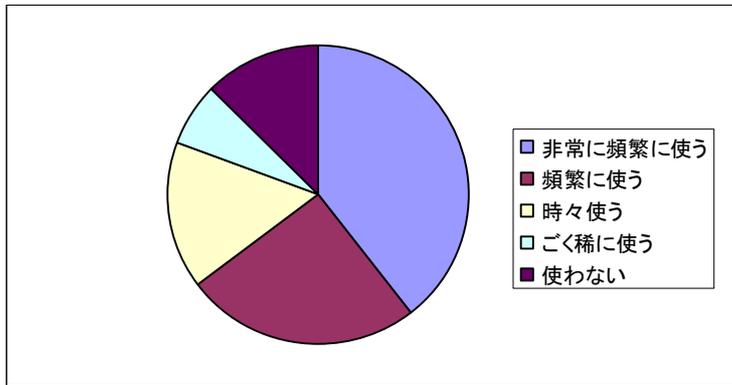
	シリア	ヨルダン	エジプト	サウジアラ ビア	イエメン	イラン	合計
現地国籍	0	1	0	0	3	1	5
その他国籍	1	0	1	1	0	0	3
合計	1	1	1	1	3	1	8



5) 日常生活での使用言語 (Q106)

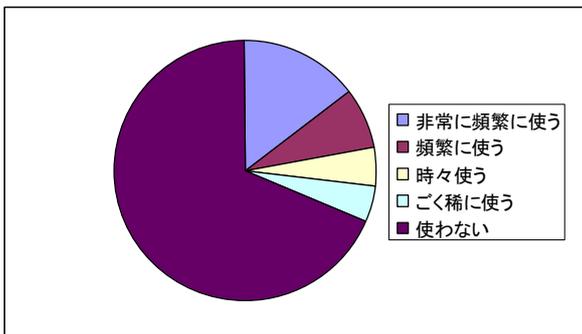
Q106-1 英語

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	10	8	15	2	0	1	6	2	3	47
頻繁に使う	6	7	8	4	0	0	1	2	2	30
時々使う	3	3	5	1	2	0	1	4	0	19
ごく稀に使う	0	1	3	3	0	0	1	0	0	8
使わない	0	1	4	9	0	0	0	1	0	15
合計	19	20	35	19	2	1	9	9	5	119



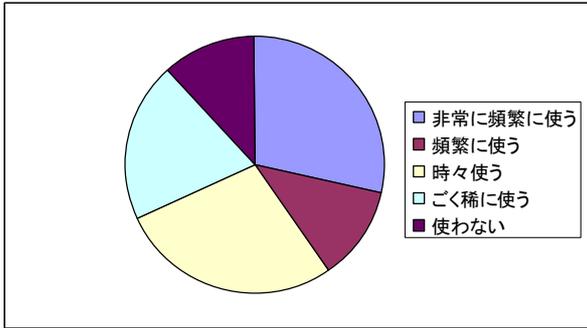
Q106-2 フランス語

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	0	0	0	14	0	0	0	2	0	16
頻繁に使う	0	0	0	4	0	0	0	4	0	8
時々使う	0	0	0	1	0	0	0	4	0	5
ごく稀に使う	2	1	0	1	0	1	0	0	0	5
使わない	14	17	30	0	1	0	8	0	4	74
合計	16	18	30	20	1	1	8	10	4	108



Q106-3 現地語 (アラビア語、トルコ語、ペルシャ語等)

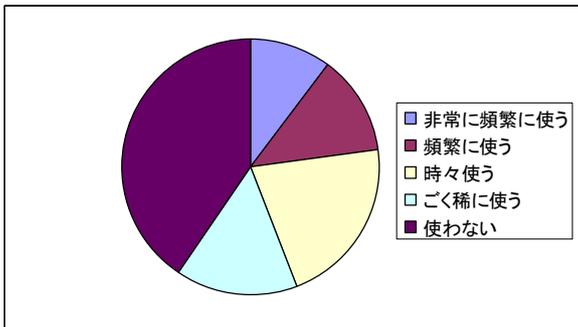
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	1	9	16	4	0	0	4	0	0	34
頻繁に使う	2	0	2	4	2	0	1	1	2	14
時々使う	8	5	9	4	1	1	1	3	1	33
ごく稀に使う	6	4	6	4	0	0	2	2	0	24
使わない	1	2	2	4	0	0	0	3	2	14
合計	18	20	35	20	3	1	8	9	5	119



6) 現地での情報収集源 (Q107)

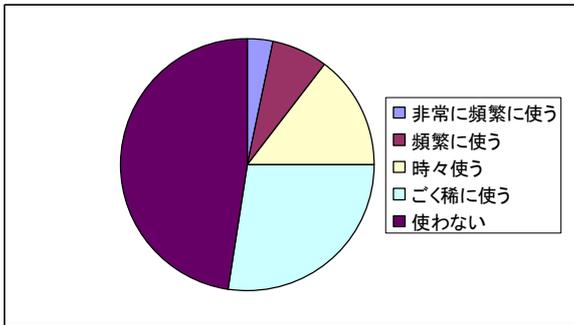
Q107-1 現地の新聞・雑誌

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	1	2	3	0	0	1	3	0	2	12
頻繁に使う	0	1	7	3	0	0	3	0	1	15
時々使う	5	2	3	6	1	0	1	7	0	25
ごく稀に使う	3	5	6	2	1	0	0	0	1	18
使わない	8	9	16	9	0	0	2	3	1	48
合計	17	19	35	20	2	1	9	10	5	118



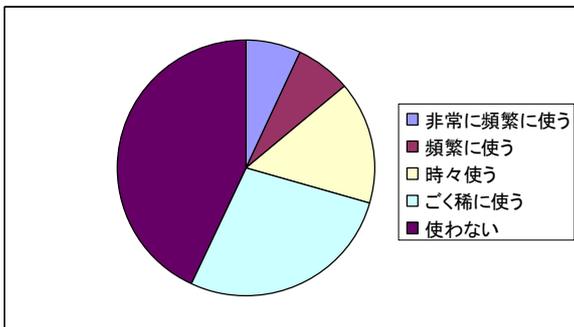
Q107-2 外国の新聞・雑誌

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	1	0	1	0	0	0	0	1	1	4
頻繁に使う	1	1	2	2	0	0	1	1	0	8
時々使う	1	3	6	3	0	1	1	1	1	17
ごく稀に使う	5	4	9	7	0	0	3	3	1	32
使わない	9	11	16	8	2	0	4	3	2	55
合計	17	19	34	20	2	1	9	9	5	116



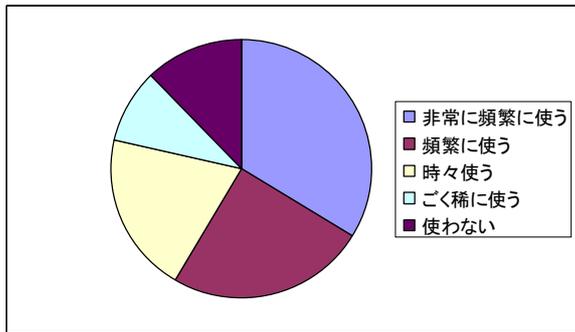
Q107-3 テレビ（地上波）

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	1	0	2	2	1	0	0	2	0	8
頻繁に使う	1	1	2	1	0	0	1	2	0	8
時々使う	3	3	8	2	1	0	0	1	0	18
ごく稀に使う	6	5	8	3	0	0	4	3	3	32
使わない	5	10	14	12	0	1	4	2	2	50
合計	16	19	34	20	2	1	9	10	5	116



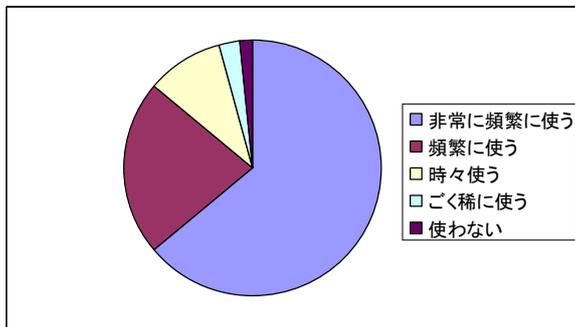
Q107-4 テレビ（衛星）

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	6	9	6	7	0	1	3	6	3	41
頻繁に使う	5	5	10	2	0	0	4	3	1	30
時々使う	8	3	7	4	1	0	1	0	1	25
ごく稀に使う	1	2	5	1	1	0	1	0	0	11
使わない	0	1	6	6	1	0	0	1	0	15
合計	20	20	34	20	3	1	9	10	5	122



Q107-4 インターネット

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	7	10	25	12	2	1	8	8	5	78
頻繁に使う	6	7	5	6	0	0	1	2	0	27
時々使う	5	2	3	2	0	0	0	0	0	12
ごく稀に使う	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
使わない	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	19	20	35	20	3	1	9	10	5	122

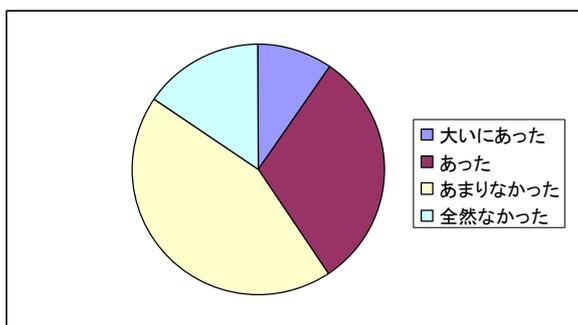


(2) 日常生活への適応状況

7) 赴任前の不安や心配 (Q108 Q109)

Q108 赴任前の不安や心配

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大いにあった	3	2	3	1	0	0	1	2	0	12
あった	7	7	10	5	1	1	1	3	3	38
あまりなかった	7	10	16	9	2	0	6	2	2	54
全然なかった	3	1	6	5	0	0	1	3	0	19
合計	20	20	35	20	3	1	9	10	5	123

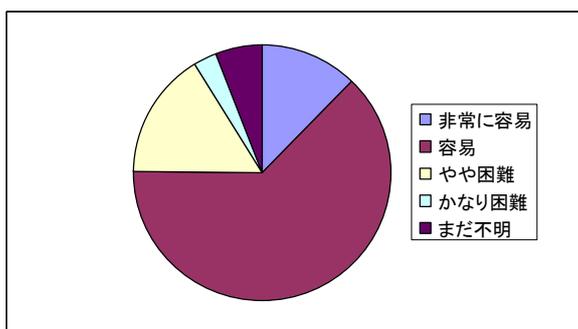


Q109 不安要因 (複数回答)
(処理中)

8) 適応の難易度と期間 (Q110 Q111 Q112)

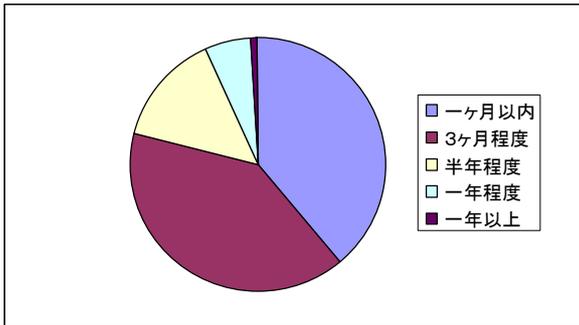
Q110 適応の難易度

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に容易	4	1	3	3	0	0	0	2	2	15
容易	14	16	21	12	3	0	5	5	1	77
やや困難	2	1	5	3	0	1	4	2	1	19
かなり困難	0	0	2	1	0	0	0	1	0	4
まだ不明	0	1	4	1	0	0	0	0	1	7
合計	20	19	35	20	3	1	9	10	5	122



Q111 適応の期間

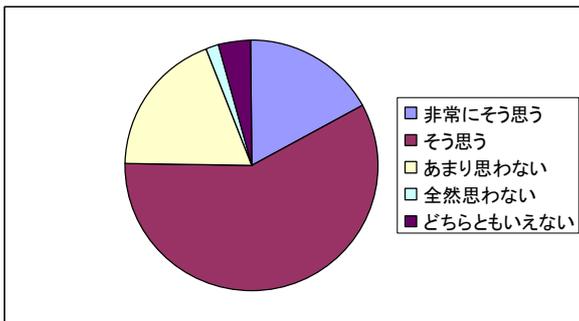
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
一ヶ月以内	8	5	13	8	1	0	3	5	3	46
3ヶ月程度	9	9	15	6	1	1	6	0	0	47
半年程度	2	4	3	3	1	0	0	3	1	17
一年程度	1	1	2	1	0	0	0	2	0	7
一年以上	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	20	19	33	19	3	1	9	10	4	118



Q112 適応が難しかった点（複数回答）
（処理中）

1 0）現地生活の楽しさ（Q113）

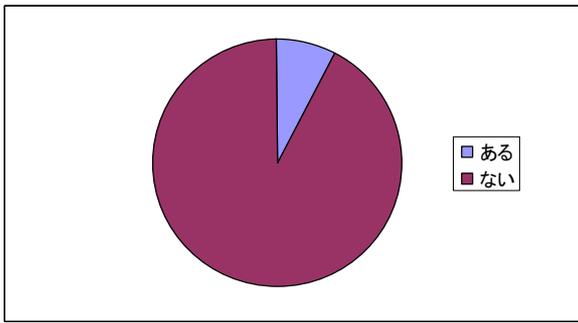
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常にそう思う	3	1	7	7	0	0	1	2	0	21
そう思う	15	12	21	6	3	1	5	6	1	70
あまり思わない	1	5	6	5	0	0	2	1	3	23
全然思わない	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
どちらともいえない	1	1	1	0	0	0	1	0	1	5
合計	20	19	35	20	3	1	9	9	5	121



1 1）日常生活でのトラブルおよび事故（Q114 Q115）

Q114 トラブルおよび事故に巻き込まれたことの有無

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	0	2	3	2	0	0	1	1	0	9
ない	19	18	31	18	2	1	7	7	5	108
合計	19	20	34	20	2	1	8	8	5	117

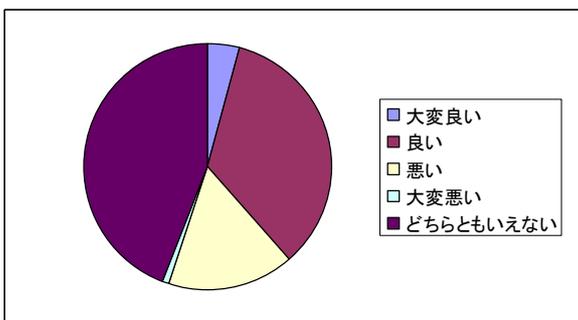


Q115 解決方法（複数回答）
（処理中）

（3）社会習慣・宗教

1 2）赴任前の現地に対する印象（Q116）

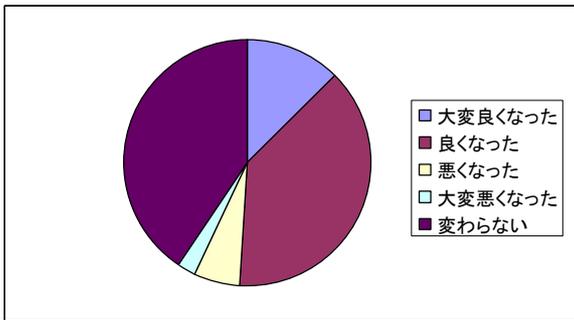
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大変良い	1	1	1	2	0	0	0	0	0	5
良い	3	4	12	8	3	0	7	5	0	42
悪い	5	3	6	2	0	1	1	1	1	20
大変悪い	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
どちらともいえない	11	11	16	8	0	0	1	3	4	54
合計	20	20	35	20	3	1	9	9	5	122



1 3）赴任後の現地社会に対する印象（Q117 Q 118）

Q117 赴任後の印象

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大変良くなった	11	0	1	3	0	0	0	0	0	15
良くなった	6	8	16	6	2	0	4	3	2	47
悪くなった	0	2	3	1	0	0	0	1	0	7
大変悪くなった	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
変わらない	2	9	14	10	1	1	4	5	3	49
合計	19	20	35	20	3	1	9	9	5	121

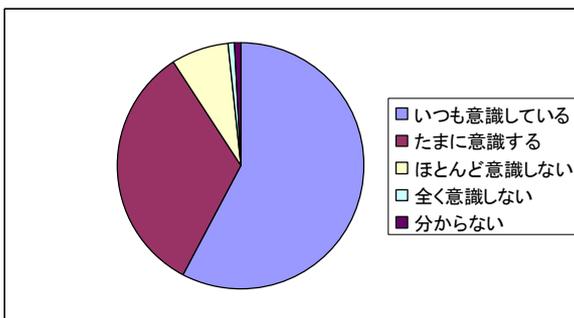


Q 118 印象が変わった理由 (自由回答)

(p.32 以降を参照)

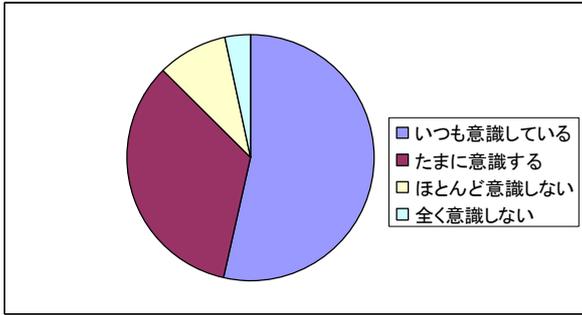
1 4) 日常生活の中での宗教に対する意識 (Q119)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
いつも意識している	11	10	21	12	0	1	8	4	3	70
たまに意識する	5	9	12	8	1	0	0	3	2	40
ほとんど意識しない	3	1	1	0	2	0	0	2	0	9
全く意識しない	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
分からない	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	19	20	35	20	3	1	9	9	5	121



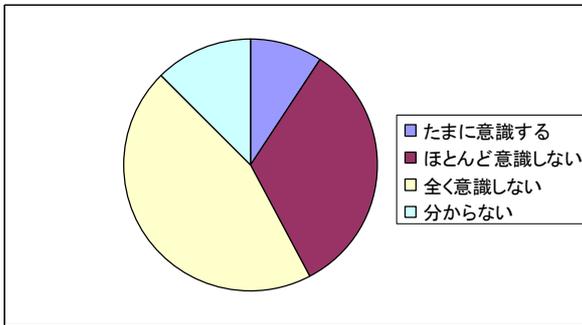
1 5) 職場での宗教に対する意識 (Q120)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
いつも意識している	9	8	23	12	0	1	5	4	3	65
たまに意識する	7	9	10	8	1	0	2	2	2	41
ほとんど意識しない	3	2	2	0	1	0	1	2	0	11
全く意識しない	0	1	0	0	1	0	1	1	0	4
合計	19	20	35	20	3	1	9	9	5	121



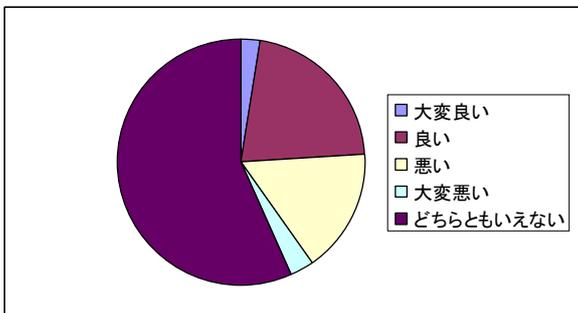
1 6) 宗派のちがいについての意識 (Q121)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
たまに意識する	1	1	2	3	0	0	2	0	2	11
ほとんど意識しない	12	5	8	8	1	1	2	2	1	40
全く意識しない	6	12	17	7	2	0	5	5	1	55
分からない	0	2	8	2	0	0	0	2	1	15
合計	19	20	35	20	3	1	9	9	5	121



1 7) 赴任前のイスラームに対する印象 (Q122)

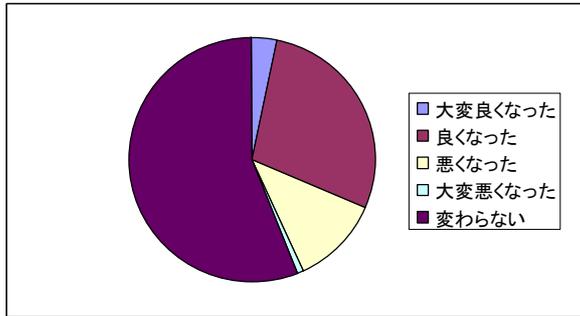
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大変良い	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3
良い	4	3	9	4	2	0	4	0	0	26
悪い	4	3	4	3	0	0	1	3	2	20
大変悪い	1	1	0	2	0	0	0	0	0	4
どちらともいえない	11	11	22	11	1	1	4	6	2	69
合計	20	20	35	20	3	1	9	9	5	122



18) 着任後のイスラームに対する印象 (Q123 Q124)

Q123 着任後のイスラームに対する印象

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大変良くなった	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4
良くなった	9	8	6	4	1	0	1	3	2	34
悪くなった	1	4	6	1	0	0	1	1	0	14
大変悪くなった	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
変わらない	8	7	22	13	2	1	7	5	3	68
合計	19	20	35	20	3	1	9	9	5	121



Q124 印象が変わった理由 (自由回答)

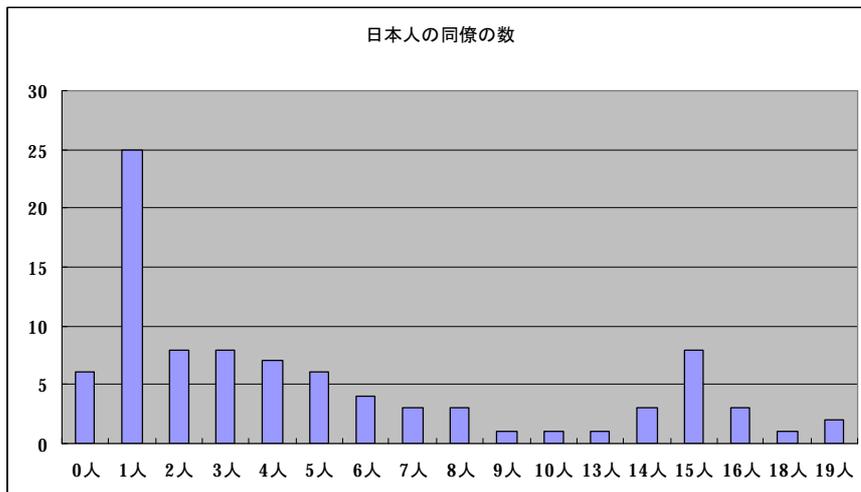
(p.32 以降を参照)

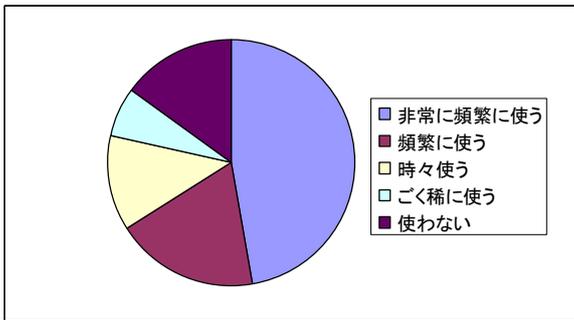
III 職場体験

(1) 勤務状況

1) 日本人と現地出身スタッフの人数 (Q201)

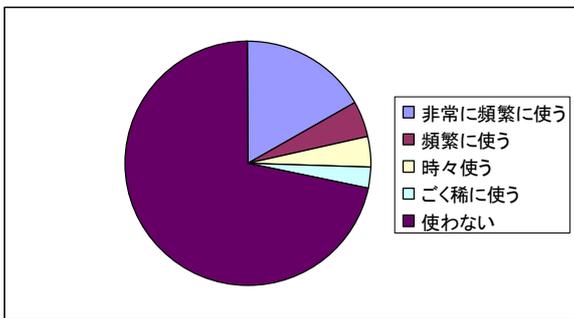
Q201-1 職場での日本人同僚の人数





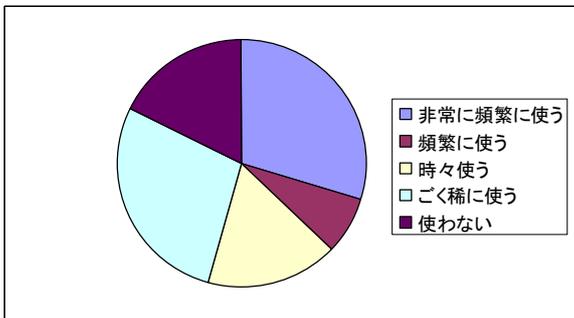
Q202-2 フランス語

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	0	0	0	15	0	0	0	3	0	18
頻繁に使う	0	0	0	2	0	0	0	3	0	5
時々使う	0	0	0	2	0	0	0	2	0	4
ごく稀に使う	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
使わない	13	18	30	1	2	1	8	0	3	76
合計	14	18	30	20	2	1	8	10	3	106



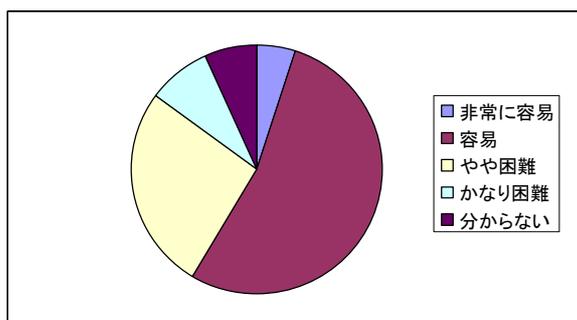
Q202-3 現地語 (アラビア語、トルコ語、ペルシャ語等)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に頻繁に使う	4	9	14	4	1	0	3	0	0	35
頻繁に使う	1	0	1	4	0	0	2	1	0	9
時々使う	4	2	6	4	1	0	0	2	1	20
ごく稀に使う	6	6	7	4	1	1	2	4	2	33
使わない	2	3	7	4	0	0	1	3	1	21
合計	17	20	35	20	3	1	8	10	4	118



3) 職場への適応 (Q203)

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
非常に容易	2	1	1	1	1	0	0	0	0	6
容易	13	9	19	8	2	0	6	5	3	65
やや困難	3	5	11	6	0	1	2	3	1	32
かなり困難	1	3	3	3	0	0	0	0	0	10
分からない	1	2	1	1	0	0	1	1	1	8
合計	20	20	35	19	3	1	9	9	5	121



4) 適応が難しかった点 (Q204) (複数回答)

(処理中)

5) 適応に努力した点 (Q205) (複数回答)

(処理中)

6) 現地の習慣や考え方の違いによる職務上の困難 (Q206) (自由回答)

(p.32 以降を参照)

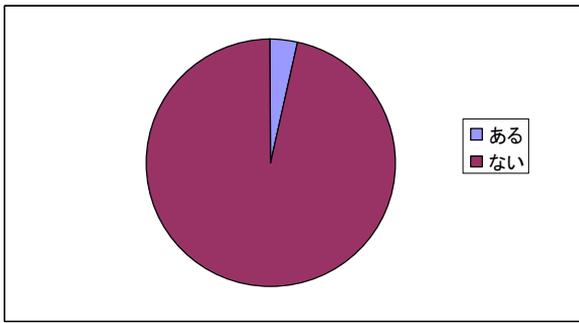
7) 職場での現地の人々との関係におけるとまどい (Q207) (複数回答、自由回答)

(処理中)

8) 職務上のトラブルおよび事故 (Q208 Q209)

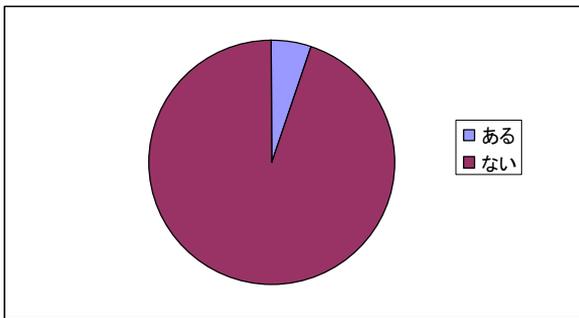
Q208-1 就業中の交通事故

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	1	0	0	2	0	0	0	0	1	4
ない	19	19	32	18	2	1	7	9	4	111
合計	20	19	32	20	2	1	7	9	5	115



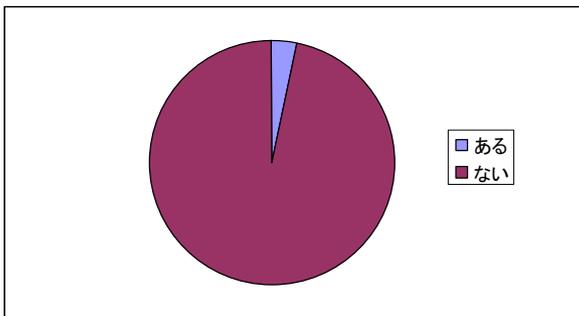
Q208-2 職場での盗難

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	0	0	2	3	0	0	1	0	0	6
ない	20	19	30	17	2	1	6	9	5	109
合計	20	19	32	20	2	1	7	9	5	115



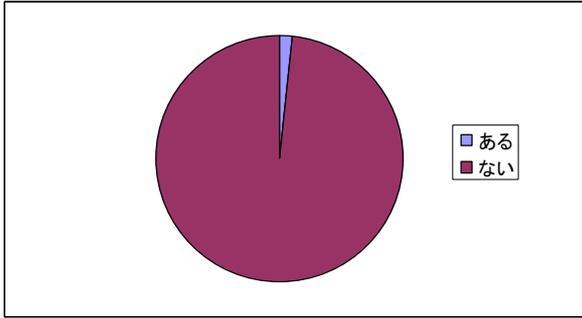
Q208-3 契約に関するトラブル

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	0	1	1	0	0	0	1	1	0	4
ない	20	18	32	20	2	1	6	8	5	112
合計	20	19	33	20	2	1	7	9	5	116



Q208-4 現地職場の雇用に関するトラブル

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
ある	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
ない	19	19	32	19	2	1	7	8	5	112
合計	19	19	32	20	2	1	7	9	5	114



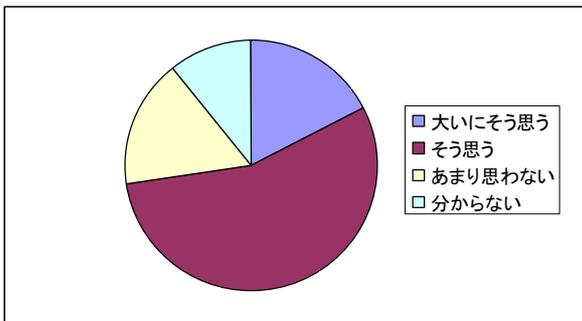
Q209 解決方法（複数回答）

（処理中）

（2）開発援助の成果

9）開発援助の意義に対する意識（Q210）

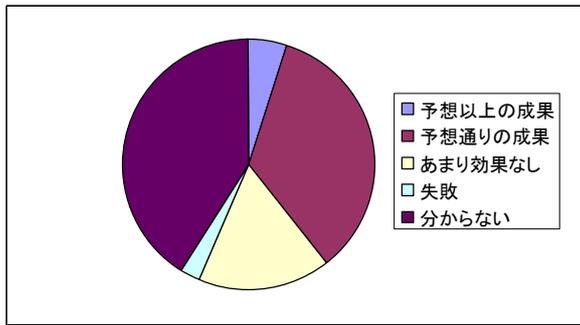
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大いにそう思う	5	3	5	5	0	0	2	1	0	21
そう思う	8	12	22	10	2	1	4	4	3	66
あまり思わない	5	3	2	4	0	0	1	4	1	20
分からない	1	2	6	1	0	0	2	0	1	13
合計	19	20	35	20	2	1	9	9	5	120



10）開発援助の成果に対する意識（Q211 Q212 Q213）

Q211 開発援助の成果は、当初の予定通りですか？

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
予想以上の成果	3	0	1	1	0	0	0	1	0	6
予想通りの成果	6	8	8	10	2	1	2	2	1	40
あまり効果なし	8	3	4	2	0	0	0	2	1	20
失敗	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
分からない	1	8	22	6	0	0	6	3	2	48
合計	18	20	35	20	2	1	8	9	4	117



Q212 成果を上げられた場合の理由 (複数回答、自由回答)
(処理中)

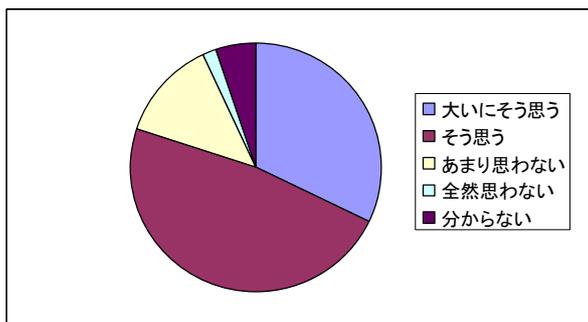
Q213 成果を十分に上げられなかった場合の理由 (複数回答、自由回答)
(処理中)

1 1) 開発援助の現場での連携に対する意識 (利害関係者や機関) (Q214)
(処理中)

(3) 今後の開発事業

1 2) 援助事業を通じた日本と赴任国の相互理解について (Q215)

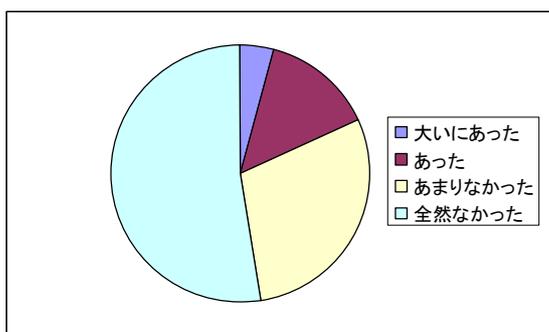
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大いにそう思う	8	3	9	9	1	1	5	1	0	37
そう思う	8	12	17	8	0	0	2	3	5	55
あまり思わない	2	2	5	3	1	0	0	2	0	15
全然思わない	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
分からない	0	1	4	0	0	0	0	1	0	6
合計	18	19	35	20	2	1	7	8	5	115



1 3) 開発事業に携わる上での必要事項 (Q216)
(処理中)

1 4) 職務遂行上での中東地域研究者とのかかわり度合い (Q217)

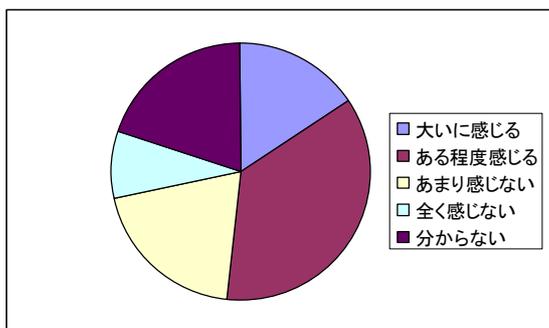
	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大いにあった	1	1	1	0	0	0	1	1	0	5
あった	1	3	4	1	0	0	3	3	2	17
あまりなかった	10	5	8	4	1	1	2	2	2	35
全然なかった	6	11	22	15	1	0	3	4	1	63
合計	18	20	35	20	2	1	9	10	5	120



1 5) 開発分野における中東地域研究者との連携 (Q218 Q219)

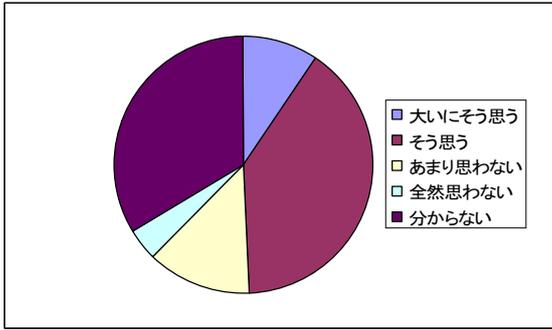
Q218 中東地域研究者との連携の必要性

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大いに感じる	2	4	3	3	0	0	1	5	1	19
ある程度感じる	7	9	13	4	1	1	3	1	4	43
あまり感じない	4	2	9	6	1	0	2	0	0	24
全く感じない	2	0	2	2	0	0	2	2	0	10
分からない	3	5	8	5	0	0	1	2	0	24
合計	18	20	35	20	2	1	9	10	5	120



Q219 連携したことがある場合、彼らの協力や助言が役に立ったか？

	シリア	ヨルダン	エジプト	モロッコ	トルコ	サウジアラ ビア	イエメン	チュニジア	イラン	合計
大いにそう思う	1	2	0	1	0	0	0	1	0	5
そう思う	4	4	5	0	0	1	3	3	1	21
あまり思わない	1	0	1	1	0	0	2	1	1	7
全然思わない	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
分からない	4	4	3	3	1	0	2	0	1	18
合計	10	10	9	6	1	1	7	6	3	53



1 6) 中東地域研究者に対する開発援助者の期待と希望 (Q220) (複数回答、自由回答)
(処理中)

(別添)

Q118 赴任後に現地社会に対する印象が変わった理由

シリア

日本人に対する差別意識がない。接する人々が全般に親切だ。先進国に見られる職業的犯罪団・人がいないので安全性が高い。
日本でのニュースがなく、あってもアメリカ寄りの片寄ったニュースのみであったため、大きく異なっていた。
日本では、シリアは「テロ支援国家」といったアメリカからのネガティブな情報のみが強調されており、シリアで実際に生活してみて感じた実態とあまりにもかけ離れていたため。
ビジネス感覚の欠如（マイナス面）。非常に友好的（プラス面）。
任地の情報がほとんどなかったことと、戦地（イラクやレバノン）の近くということもあって心配していた。
礼儀正しいことを知ったため。
過去にビジネスで来た経験があるが、経済発展が目覚ましいのに驚いた。
シリア政府の政策が、西欧メディアで伝えられているものとはかなり違うとわかったこと。シリア人が長い歴史と文化を背景とし、情をもつ人々であると感じるようになったこと。
印象というより、情報がまったくないに等しく、ゼロからの始まりだったため。
親切で案外人懐っこい。穏やかな人が多いように見受けられた。
安全性が高いこと、物価が安く生活し易いこと、人々が親切であることなどがわかったのだ。
治安の良さ、人々の温かさ、親切さ、特に食料品および公共交通機関の安さという観点から、きわめて良い印象を持つようになった。尚、国際社会での当国に対する評価が低いのは気の毒である。
自分の勉強不足と、日本でのメディアの報道の少なさ、偏りから現地のことをよく知らなかったが、生活していく中で、人々の生の姿が見られた。また、赴任前は印象が良い悪いというより、知らないことから来る不安を感じた。
治安が良いこと。親日的な人が大半であること。物価が安く生活し易いこと。
宗教（イスラム教）がさほど厳格でもなく、しかしモラルがあり、人が優しく思いやりがある点に感動した。
シリア人のホスピタリティに触れ、イスラム社会についての理解を深めたため。
人々の親切さ、生活のしやすさ。

ヨルダン

イスラム教徒として、もっとマイノリティーの人々に対して優しく接するものだと思っていたが、決してそうとはいえない状況だとわかったため。
日頃接する現地の人がとても親切にしてくれた。宗教等にギャップは感じたが、現地の人と話していると納得できることも多かった。
治安がいい。
インフラ・治安面の質は思ったより高かったので安心したが、その代わり、セクハラ・野次の多さにストレスを感じるようになったので、全体的な印象の悪さは変わらない。
ヨルダン人は親切でフレンドリーである。家族を大切にする、友達を大切にする。人との絆を大切にする。家族と共に過ごすことを仕事よりも優先する感がある、うらやましい限りです。
治安もよく、まだ危ない目にあっていない。思ったほど、ぼられない。
実際に生活し、現地の人との関わりを通して印象が変わった。意外と親切で自分自身に危害が加わることはなく、逆にいろいろな場面で助けてもらったから。たまに不快なことをしてくる人もいるので、大変よくなったとは思えない。
(援助国への) 依存度が高いため。
イスラム・アラブ文化が見かけだけで薄っぺら。経済、文化、歴史どれも実体がないのにプライドと物価が高い。
ヨルダン人は人懐っこく、世話好きだから。

エジプト

一般の人々と交流する中で、少しずつ変わってきた。
現地の人が見えやすく友好的なため。
ナショナルスタッフや家主等現地の方との交流を通じて。
車を運転する人(特にタクシーやバスの運転手)のマナーの悪さ。自宅周辺(ピラミッドの周辺)のぼったくりの多さなど。
生活していく中で、宗教や国民性についての理解が深まった為。
首都カイロでは変わらなかったが、任地の田舎に来てからは、エジプト人の優しさにふれることが多いので。
エジプト人の人間性が予想よりもよかった。
痴漢が多い。アジア人を馬鹿にする。仕事をしない。
印象は変わらない。良いところもいやなところもそれぞれにある。
自分はカイロの喧騒が苦手だが、喧騒がないところへの旅行を通じて、エジプト全体への印象は悪くなくなった。
印象に変わりなし。

<p>実際に、思っていた以上に治安がよかった。食生活に問題がなかった。インフラが整備されていた。</p>
<p>貧困の格差や階層社会を実感した。イスラム社会は、思っていたより女性に厳しい宗教と感じた。</p>
<p>一度出来上がった人間関係は、想像以上に濃密になる点。</p>
<p>任地の人々と交流する機会をもち、相互に理解することができたため。</p>
<p>安全な生活ができる。人々は親切。</p>
<p>アパートの大家が家族と同じように接して、困った時は助けてくれるから。</p>
<p>仕事で接する範囲のエジプト人(上流階級)からは、あまり極端な途上国の人にはありがたな、無責任な対応を受けていない。</p>

モロッコ

<p>日本人と同じような心の機微を現地の人々からも感じた。</p>
<p>仕事の間を通して学ぶことが多いから。</p>
<p>自分が想像していた社会より、近代的な面が多く、現地の人達のシンプルな人間性に大きく影響された。</p>
<p>モスLEMということ、非常に排他的だと思っていたら、すごく人当たりが良かった。</p>
<p>以前旅行した時、ガイドなどからしつこくされ、商人には騙される経験をしたから。</p>
<p>以前住んでいた時の悪い経験の記憶が残っていたが、今回赴任してかなり変わっていたので、印象もだいぶ良くなった。</p>
<p>美しい伝統を持ち、観光に力を入れている面白い国だという印象を抱いてきたが、文化の違いにより、また性格や言葉の違いから、仕事をするに当たって多くの困難があるため。</p>
<p>付き合ってみると人々の性格は温厚で平和的であるから。家族、友人を大切に、私もいろいろと助けられるから。</p>
<p>人を招き入れる文化であるため、現地の人々は非常に親切で食事やお茶等に常に誘ってくれる。イスラム社会=暗いクローズというイメージを持っていたが、そればかりではない。洋装など新しいものを取り入れようとする姿も良く見られる。</p>
<p>パリに8年住んでいた間にフランス人の対アラブ偏見が移っていた。アラブの国に来てみると温和な人懐っこい人たちで驚いた。</p>
<p>人々の優しさに触れたから。</p>
<p>現地の人々と肌で接し、フランス語だけに甘んじることなく、アラビア言語文化の中に身をおいてモノを考え、行動するようになったから。</p>
<p>生活環境が最低限のものは全て整っていること。第一に印象がいいのは、人がいい。とても親切で優しく迎えてくれて、大変印象が良くなった。今でもその気持ちは変わっておらず、環境、現地社会に感謝している。</p>

その他の国

<p>イスラム圏という先入観があったが、普段の生活では、全くイスラム色を感じることはなく、変わらなかった。</p>
<p>現地のこと分かってきた。親切。治安がよい。</p>
<p>こちらの方の人間性（友好的で明るい、年寄りをいたわり困っている人を助けるという態度）。</p>
<p>治安が想定していたよりはるかによかった。人々は善意な人が多い。イスラム圏の割には、飲酒や服装の点で、想定していたよりはるかに自由であった。生活水準が思ったより高かった。</p>
<p>治安がよく、忘れ物（携帯電話、買い物した商品）が直ぐに届けられた。非常にフレンドリーな人たちで、分かち合いの精神に富んでいる。アラビア語での挨拶が喜ばれ、直ぐに受け入れられた。英語が想像以上に通じ、英語が話せるのはエリートだと思っている節があり、話したがる。</p>
<p>印象が変わるのは、人間力の不足である。修養不足の人に当てはまるだろう。</p>
<p>予想以上に後進国。民度がこんなに低いとは思っていなかった。</p>
<p>コミュニケーションを通して、過度のバイアスがなくなったから。</p>
<p>学生のころ、留学していた先輩が、女一人では住めないと3ヶ月で帰国したと聞いたイメージのままだったが、思っていたより一人で動き回れるということを実感した。</p>
<p>日本では、当該国に関する情報が非常に少なかったため、不安な点が多々あった。しかし、実際に現地に着て見ると、特に不安となる物事はないことが分かった。</p>
<p>想像していたより生活環境が厳しかった。アフガニスタンやパキスタンを経験しているが、アフガニスタン（治安が良好な時代）以上に生活しづらい印象がある。外に出られない生活は想像していなかった。</p>
<p>現地の人々は親日感情が強く親切。</p>
<p>赴任前、当該国はイスラム原理主義で、色々制約の多い国と想像していたが、実際に来てみると一般の生活ではイスラム原理主義を感じさせるものが非常に少ないことがわかった。</p>
<p>社会や文化の奥深くに触れて、それが、自分が思っていたものよりずっと良かった/優れていたため。</p>

Q124 任地に来た後で、イスラムに対する印象が変わった理由。

シリア

日本のマスコミが中東について報道する内容は紛争関連だ。このため、紛争をイスラム教徒と結びつけて理解する傾向がある。一般のイスラム教徒は、日常の挨拶にあるように「アッサラーム・アレイクム（あなたに平穩あれ）」とよく結びつく生活をしている。
イスラムについて何も知らなかった故に、全く無理解であった。
イスラムに関して不十分な知識に基づく偏見を持っていたが、シリアで多くのイスラム教徒と話しをして宗教であることを認識した。
インシャーアッラーは何とかならないか（約束が守られない）。
生産性を阻害するようなお祈りの習慣のため。
イスラムは単に宗教というより、文化であると認識するようになったから。
宗教は人間の幸せを願ったもので、それを築くに神とか仏の教えがあるものと考えている。その教えを修行している人々は、概して善の行動を取っているから。
人々がおおらかで親切である。
女性の服装、生活習慣など抑圧されている部分が大きいと思っていたが、実際、現地の女性はそう感じてはいない様子だから。
長い文化的歴史とその誇りを持ち、欧米の近代化に対しても安易に受け入れることなく、毅然としているところが素晴らしいと思う。
信仰深い友人が職場にいることと、毎週会う友人がおり、普通の人に比べて（また日本人に比べても）大変心地の良い人たちで、心が洗われる思いをするから。自分も仏教徒であるため、共通する部分が多くあり、ほっとする。
シリア人のホスピタリティや忠誠心に触れ、イスラムへの理解を深めたから。

ヨルダン

女性にとっては、あまりに閉鎖的であるため。
日本では、任地やイスラム教についての情報が少なかったが、現地で日常の中にあるイスラムの姿や人々の信仰心を知ることができたからだと思う。
自分の行動すべてを神に委ねていることで、余計なストレスを感じずに生きてくる姿をみて、これも一つの生き方ではないかと思ったから。もちろん、理解できないこともある。全てが神の申すままなので、「努力」は少ないように思える。現状を受け入れることはとても上手だが、そこからどうしていくかは全て神に委ねられる。自分で考える要素が少ないのではないかと。欲高でない分、「こうしたい」という欲求が少ないので最良、最善ということが得られにくい。しかし、そうすることがあまり重要でないと私自身は感じているので、私はこの生き方が好きである。その他に、外国人女性に対するセクハラが多いの

<p>はイスラム教で欲求を抑えている矛先が向いているような感じがして、理不尽である。</p>
<p>一応他の宗教も認めている。アルコールは絶対駄目と思って来たが、ビールなどの店があり、買うことが出来る。</p>
<p>人々と交流して彼らの基本的な考え方が理解できたため、ニュース報道と違い、一般人は非常に敬虔な宗教人で穏やかな人が多い。毎日、5回もお祈りをするのは、私にとって驚きである。</p>
<p>同僚や大家からイスラム教について、ムスリムについての話を聞いた。その信仰心（何を重んじているかなど）を知り、人として生きていく中で私自身が考えている価値観と共通する部分があったので。</p>
<p>もっと敬虔なイスラム教徒が多いのかと思いきや、そうでもなかった。ヨルダンはかなり西洋化されていた。</p>
<p>コーランを自分の都合よく解釈しており、本来の目的から変わっていると感じる。どのようなコーランの解釈もまかり通っていて、イスラム教がそれぞれ暴走している。イスラム教は、拝金主義に負けている。</p>
<p>物事に対して非常に偏った考え方を持っており、良し悪しの基準を自分たちの物差しでしか計ろうとしないところ。</p>
<p>イスラム教の教えのためかどうか不明であるが、ヨルダン人の人柄がよいという印象があり、その結果、イスラム社会に対しても印象がよくなった。</p>
<p>旅行などで接してきたムスリムたちはおしなべて親切であった。しかし生活し、深く知っていくと、私たちに合わない不合理さもあるように感じた。</p>

エジプト

<p>もっと気性が荒いと思った。</p>
<p>男女交際など、イスラムでは結婚するまで女性に触れられないという教えの反動か、観光地では店の店員がここぞとばかりに触ってくる。抑えられているから余計にその欲求が強いように思われる。</p>
<p>イスラムは、本人たちを向上させる方法を出していないし、指導していないと思われる。印象に変わりなし。</p>
<p>いい人が多いから。危険な過激派イスラム原理主義などがいなかった。</p>
<p>毎日、自爆テロを起こす人ばかりだと思っていたが、そんな無謀な人ばかりではないことが分かったから。彼らと共に生活をする中で、宗教についても良く話しをするから。</p>
<p>敬虔さがとても印象的。</p>
<p>女性に厳しい宗教であることを実感したため。</p>
<p>少なくともエジプトでは、イスラム教のもとに社会秩序が保たれている感想を持った。</p>

モロッコ

<p>すでにイスラム国(マレーシア)の一家族と交流があったので、悪い印象は持っていなかった。</p>
<p>日本のマスコミの情報では、いい印象を与える面は少なかったと思います。現地の人達は一生懸命にお祈りをし、感謝して生きているのです。いろんな人生があると感じました。</p>
<p>目には目を、という言葉から、暴力的なイメージを持っていたが、本来のイスラム教は聞くとところによると、ずっと柔軟で女性にも保護的であることがわかった。</p>
<p>イスラム教に対する理解が進んだため。</p>
<p>イスラムというより、現地の人を一人の人間として捕らえ、親しき仲間となっている今、彼らの信じる宗教は彼らを支えているものであり、他人が否定したり肯定したりするものではないと考えるため。</p>
<p>総じて優しい。</p>
<p>人間関係でこじれが生じると、難しい面は確かにあるが、全般的に外国人に対するイスラム社会独特のホスピタリティは大きい。</p>
<p>仕事や人間関係で上手くいかないことについて、イスラムの慣習や宗教を原因、理由とすると自分自身が納得しやすいため。</p>
<p>神に感謝して厳粛に生活をしている姿に心を打たれます。感謝を持って生活している姿勢は見習いたいところです。</p>

その他の国

<p>イスラム社会のことが分かった。</p>
<p>食べ物の違い等はあるものの、極端に宗教に立脚した言動には接していないため、「イスラムに対する印象」を認識しづらい。周囲に『敬虔なイスラム教徒』と感じられる人がいない。</p>
<p>当方にイスラム教およびイスラム社会を押し付けることなく、双方が比較的自由に話し合いできる。任地へ来る前は押し付けられるのではと不安だった。</p>
<p>特にゆるいイスラム教国であるが、金曜日になると午後は早めに職場の人も帰宅し、モスクに行くそうである。敬虔な仮面、原理主義でもなく、飲酒、服装は西欧的な面もあり、うまくバランスを取っていると思う。</p>
<p>治安の良さ、女性の社会進出度、人懐こさにより印象は良くなった。反面アジア系が未だ珍しいため、動物園の動物的な対応には不快感がある。社会的教育がないのか？マナーが極めて悪いのは遺憾である。外国人側から見れば煩く、且つ高慢とられやすい(欧米人とも話したが、見解は一致した)。</p>
<p>人間としての修養が出来ていない人は変わるであろうが、一般には変わるはずがないと考える。修己知人の言葉通り、そんなこともできていない輩が来ること自体、間違っていると考える。</p>

<p>宗教を言い訳に利用しているだけで、実生活は宗教とは縁のない無法地帯。</p>
<p>もともとムスリムの友達に沢山いたし、アラブ圏の友達もいたので特に変わらない。ただ、イエメンはかなりまじめに信仰している。良くも悪くもかなり濃いイスラム世界だと思う。</p>
<p>ラマダンについては、仏教で言う「修行」のようなものだと理解していたが、但し夜と昼が逆転するのみで、この間行政活動も政治活動もほぼ麻痺してしまい、人々はほとんど働かない状態であった。仕事についている人でも、朝まで寝ないため、始業時間に頻繁に遅刻したり、欠勤したり、仕事に身が入っていなかったりと、非常に非生産的な状態であった。何のために1ヶ月もラマダンしているのか、と疑問に思いつつ、イスラム教に少し失望した。</p>
<p>ゆるいイスラム世界であるため。</p>
<p>一般の人々の宗教観に触れる機会があったため。</p>
<p>良いところはあると思います。また自分のイスラム（神学）に対する理解の浅さは棚に上げますが、現代社会においては、どうしても無理がある。いろんな解釈や説明を聞けば聞くほど、ただの屁理屈に思えてくる。人生相談など笑ってしまう。イスラム女性がイスラムを褒めているのを聞くと、可哀想な気持ちになることもある。モスクの中でさえ差別されているし、コーランの天国の描写を読んで、行きたいと思う女性がどれだけいるかと思う。少しだけある良い部分（遺産の分配など）を取り上げて、女性差別的でないという人達もいるが、そもそもそんな主張をせねばならないところが痛々しい。異教徒に対する扱いも知れば知るほど、こちらとしては肩身が狭い。いつ殺されるのかとってしまう。こういう印象は、私としては本意ではないので、どこかでイスラム教の勉強をきちんとしたいと思っています。</p>

Q206 現地の習慣や考え方から、職務上、困ると思うことはありましたか。

シリア

計画性に乏しい。職務責任感に乏しい。フレキシブルタイム制のような勤務実態。事務処理の能率が悪い。機器や消耗品の管理が大雑把。
計画通りに物事が進められない。法律が異なる。社会法、雇用法など知らない点が多くあり、日本人の常識は役に立たない。
シリア人は一般にメモをとらず記憶に頼る傾向があり、また時間を守る意識が低いため、約束をしたことが予定通り行われなかったケースが大いにあり。
約束が守られない。時間がルーズ。予定が立たない。自己中心で自己の要求が強すぎる。忙しすぎる。複数の仕事をしている（アルバイト）。
約束や時間にルーズである。例えば、会議やセミナーを開催しても、30分遅れは当たり前という感じ。
次の質問に関連しますが、縁故主義が一番難しいと感じる。
役所の仕組み、構成、意思決定の家庭を理解するのに、3ヶ月かかった。
思いつかない。
当初は困っていたが、順応してしまった。時折、日本のやり方、生き方そのものが世界標準から逸脱しかけているとさえ思うこともある。
大いにあります。1. 先ずお茶を飲んでから、という文化。2. 責任感はあまりないが、自己主張が多い。3. 人の言うことに耳を貸さない。4. 持てる者が持たざる者を援助するのは当然。
JICAの仕事を勘違いしている人が多く、金銭や物を要求されることが多かった。
約束が必ずしも守られない。
特にない。
締め切りを厳守する意識が高くないため、業務が滞ることがあった。

ヨルダン

宗教的禁忌があまりに多く（特に女性は）、子どもと遊んだり、膝の上に乗せることも自由には出来ないので、手放しで楽しみづらい状態にある。
会議などの予定が直前に変更になっても気にしない。また、それを聞くまで知らせてくれない。
同僚は副業を持っている。「この国では、どんなにいい仕事をしてもらってもそれに見合った給料は貰えない。安い。だから、副業に体力を残す程度に仕事をするのが一番」と言われたこと。
東洋人軽視が大学の構内でもあるのは、非常に遺憾。

<p>自然環境や自然の成り立ちを説明する上で、イスラムの考え方と相違が出てくると予想される。その部分が受け入れられるか心配。</p>
<p>殆どの企業の管理者・大学教授達は実際の現場経験がない、生産性向上活動は現場の改善です。本を読んで知識が豊富でも具体的な改善案は出てこない。作業者には全く期待できない、このような組織形態でどのようにして生産性向上を進めるのか？</p>
<p>勤務時間が定められているものの、ちゃんと守られていない。仕事を特にしなくて、暇でもそれが当たり前だと思っている。</p>
<p>現地の思考標準が彼らの標準でない事、全てがインシャーアッラな部分があり、約束をしたつもりでも、しばしばキャンセルがある。</p>
<p>男女間の関わりは、全くといっていいほど一線が引かれているため、仕事上ために制限や支障があった（例えば女一人では移動できないなど）。</p>
<p>職場規制や職務上の指示したことが守られないこと。</p>
<p>特に女性で、年齢的に目下に見える場合、軽んじられる印象がある。同じことでも、男性が話すと、受け入れられやすい。</p>
<p>非常に困るわけではないが、自己責任能力に欠ける、自分の都合に合わせる事が多いように思う。</p>
<p>時間にルーズな点。</p>
<p>契約形態にもよるが、勤務時間後に現地スタッフが仕事をする事はない。ここまでやってほしいと思っても、翌日に回してしまうことがあるようだ。</p>
<p>自分の知識や経験をあまり共有/他人に教えたがらない。日常発生する単純作業・デスクワークをやらず、指図命令的な業務を非常に好む。</p>
<p>特になし。</p>
<p>特にないが、日本に比べれば約束の確約ができないこと、約束まで日が空いてしまう場合、もう一度確認しないとキャンセルされることが多い。</p>

エジプト

<p>依頼事項や質問に対して、明確な回答を得られない場合がある。</p>
<p>何が大事か、何を優先しなければいけないのかの認識の違いがある。</p>
<p>現地のスタッフのモチベーションの持続が困難なため、継続した活動が難しい。</p>
<p>勤務時間中、お祈りに行くこと。</p>
<p>労働者としての権利意識が強い。反面、義務については認識が甘い。</p>
<p>子供たちを叩いたり、罵声を浴びせたりすること。先生とお世話係という保育士の仕事二分されていること。</p>
<p>特になし。</p>
<p>計画性がない。公私混同。</p>

現地の関係機関の仕事の進め方（トップダウン、情報を抱え込む、独りの手柄にしたがる人がいるなど）
宗教第一であり仕事は第二である。
現地人は、仕事をしないでおしゃべりすることが多い。それは悪いことではなく、こちらでは当たり前の習慣。
年功序列のコネ社会のため、現地の一番えらい人が全ての権限を握っている。その人の言うことが全てである。
アポのドタキャンと時間厳守の観念の違い。
時間や仕事上の約束にルーズなこと。
楽天的な考え方をする人が多く、プレッシャーや仕事の責任感を共有できない部分がある。
計画とスケジュールを作って、それに基づいて活動するという習慣と意識が希薄。個人別の人間関係で行政・社会が動いている感があり。
年齢を気にするようで、年下の方が年上の人を管理する、ということが難しい。
口約束が多いこと。
学歴による階級意識が強いこと。従って、現地の人々の間で、自由に業務上の議論が交わせない。
職場の同僚が、仕事に対する責任感・意欲がなく、休憩時間が長い。
指示待ちの姿勢。的外れな自己アピール

モロッコ

1. 整理整頓、維持管理の考えがない。2. 親切心を利用するようなどころがある。
時間の流れが穏やかで、自分のペースで処理するのが難しい。一つのことを処理する時間が、日本の感覚より長い。
時間のルーズさ。人の意見は聞かず、自分の話を一方的に話すため、会議が成り立たず、問題の解決策を見つけることが出来ない。
話し合いがほとんどない、トップダウンのやり方。チームワークがなされない。予算不明。プライドが非常に高く、カウンターパートとの関係作りに苦労した。
責任感がない。向上心がない。
期限のある仕事が期限内にできない。
責任感の違い。連絡のフォローがない。仕事が雑。仕事のやり方に関しての工夫や整理の仕方が日本人から見てかなり低い。
企画段階ですぐにゴーサインが出るのに、実際に実行段階になり、期限が迫ると理由をつけて、「出来なくなった」といわれること。計画性がないこと。すべてはアッラーの御心しだい、と考えていることから、約束に対する責任感がない。

<p>予定を立てたがらない。やる気のなさを政治のせいにする。</p>
<p>幼児教育に携わっているが、そもそもここでの幼児教育とは就学前教育であり、読み書きイスラム教、コーランについて学習しているので日本の幼児教育とは全く違い根本的段階でその違いに悩まされる。</p>
<p>休日が前夜にしか分からないことがあり、仕事の予定が立てられなくて困るラマダンやヴァカンス時には、仕事が進まない。</p>
<p>公私の区別が曖昧で勤務時間、勤務日ははっきりとしてなく、さらに各人の情報共有もしたがないので業務の工程計画が立てづらい環境だった。</p>
<p>好むと好まざるに拘わらず、ラマダン等の宗教慣習に服せねばならず、執務時間・食事に支障が出たとき。</p>
<p>時間にルーズ。</p>
<p>特になし</p>
<p>勤務時間が限られていること、ストライキが多いことで相手と会えるチャンスが減ることがあったとき。</p>

その他の国

<p>職場での要求事項が明確でなく、自由に任されているが、最初は指示がないため戸惑いを感じた。</p>
<p>合意事項などを文書でまとめる際に、法的な裏付けを厳密に求めることがあること（ある意味当然であるが、硬直的と感ずることがある）。</p>
<p>物事の進め方が属人的、強い縄張り意識、官僚主義的で誰に話を持ちかければ話が進むかを見極めるのが難しかった。</p>
<p>時間管理がルーズ。約束を守らない。行動が非常に遅い。</p>
<p>配属先では場合、各委員会が権限を持ち、会議所の専従職員は、意思決定できない。起案などもあまりせず、委員会の決定を忠実に実行しているだけである。委員会のメンバーは、他に本職があり、商工会議所の活動は片手間という感じである。商工会議所は公共的なものであるはずだが、委員会は政治的要素が多く、中立性に疑問を感じることもある。</p>
<p>良くも悪くも「インシャッラー」と「ハムドゥッラ」の精神。会議、約束の不履行。責任の所在が不鮮明（自己責任回避）。助け合いの精神＝助けられて当然の感強し＝甘え、高慢にもつながる。反して助けられる側に廻れば、これ程ありがたい人達はいないだろう。</p>
<p>いろいろ約束しても実現しないので、仕事を進めるのに時間がかかる。</p>
<p>何もない。同じ人間としての尊厳を認め合い、目線を合わせて、同じ目標に向かって努力すれば、活路は開ける。</p>
<p>困ることはないが、相手が困っていると思う。</p>
<p>女性がベールをして顔を隠しているため、女性とのコミュニケーションが難しい。</p>

相手側の勤務時間が極端に少ないこと。
何でもお金を出して人を集める。
祈りの時間になると仕事がストップしてしまうこと。
カートを噛む習慣。あまりにもスローで約束が守られないこと。官庁がほぼ午前中しか動かないこと。
ラマダン・アード中の仕事の進まなさ。
仕事の速度の遅さや仕事に対する怠惰な態度には、かなり衝撃を受けたが、これが、この国の性格だと思い、なるべくあきらめるように努力している。
政府関係機関は夏休みとラマダン明け休暇を非常に長く取るので仕事の進め方に支障をきたした。
事務所運営に当たって、税金の処理については困ることが多い。会計士に相談しても解決できない問題が多い（法律の不備）。
前述の公私混同や「資本主義社会」の常識で共有できないことがあり、それらを一つひとつ説明しなければならなかったこと。彼らもこちらがわけのわからないことを言うので戸惑ったと思う。